

## 世の中を変えたい～今勉強する意味～

湘南白百合学園中学校 3年 つつい かおるこ  
筒井 薫子

私は、ある日偶然ニュース番組のあとに流れた国会中継を見た。その日は安倍総理に対して各党の議員が質問をしていた。挙手をして名前を呼ばれると発言をする形式だ。何気なく見続けているとまだ総理が発言しているにも関わらず、「おかしいじゃないですか！」と遮るように自分の主張を大声で叫びだす議員。そして「そうだ、そうだ！！」と野次があちこちから聞こえてくる。

私はびっくりしてしまった。これが日本の重要案件を話合う国会なのか。これで大丈夫なのだろうか。十分な話し合いが出来るのだろうか。詳しいことはわからないから否定ばかりはしてはいけないのかもしれないが、少なくとも学校で物事を話し合う時は皆の意見を出し合い尊重して進めていく。それが当たり前だと思っていたから、ただ主張を叫び合うだけではうまく行くとは思えなかったのだ。何とかしたい。世の中を変えたいと私は漠然とだが不安と使命感のようなものを感じた。でもそのためには何をしたら良いのだろうか。政治家になるのも簡単ではなさそうだし、どんな仕事に就き何をしたらよいか。全くわからなかった。

私の父は広告代理店に勤めている。父の仕事は企業からの依頼を受けて、その企業が発展していくためにアイデアを出し一緒に考えていく仕事だ。一見その企業の為だけに働いているようだが、父は以前こんなことを言っていた。「その先には企業と関わる消費者一人一人がいる。企業が発展することはその先の国民のためになることなんだよ。この仕事は広告で世間に問題を提起することが出来る。その一つの小さな提起が物事を大きく動かす原動力となることがある。世の中とつながっているんだよ。」父はそういう使命感をもって働いていると感じた。

一方母は以前幼稚園の先生として働いていた。可愛い子ども達と一日中過ごすのは楽しそうな仕事だと思った。しかしそれだけではないらしい。幼稚園では子ども同士で読みたい本が重なったときなど必ず話し合いをするそうだ。最初はどちらも「私が先に読みたい！」と主張する

が、「ではどうしたら良いと思う？」と投げかけると「じゃんけんで決めよう」とか「順番に読もう」「一緒に読もうか」など自分たちで解決策を生み出すそうだ。そこには相手を思いやったり、自分のことのように考える姿がある。こういう経験を通して子どもたちもやがて成長し大人になっていく。思いやりのある大人がたくさん育てば、必然的に世の中は良くなっていくだろう。会社で働く父と、幼稚園で働く母。全く違う仕事だが、違う形で世の中と関わり変えていく力を持っていると感じた。ということは、私が将来どんな仕事に就いても世の中を変えていくことになるのだと気づいた。そう考えると将来が楽しみにになったし、働く意味があると明るい気持ちになった。

2019年の東京大学の入学式で上野千鶴子さんの祝辞が話題になった。その中で「あなた達の恵まれた環境と恵まれた能力とを恵まれない人々を貶めるためではなく、そういう人々を助けるために使ってください。自分の弱さを認め支え合って生きてください。」という部分に私ははっとさせられた。私が今勉強しているのは、将来の自分のためになる。——だけではない。私が将来就く仕事は他の人のためになり世の中のためになる。父や母のように目の前の仕事のその先は人々とつながっているのである。そう思うと今勉強をすることは大きな意味がある。毎日の勉強は大変だが頑張れる気がした。将来世の中を良く変える力を私達一人一人が持っている并希望を持つことができた。

国会中継を見て感じた疑問を通して、私は自分がどうなりたいかどうしたらよいか漠然とだが見出すことができた。勉強が大変に感じた時このことを忘れずにいたいと思う。